

子どもたちの学習支援活動

支援要請校が急増

副理事長 加藤 勇治 (美 40)

学習支援活動の推移は下表のとおりです。

年度	支援要請校	支援活動校	支援会員数	対象児童数
平成 17 年	22 校	18 校	81 名	14,532 名
平成 18 年	28 校	25 校	214 名	25,080 名
平成 19 年	51 校	26 校	228 名	

(19年度は7月20日現在です)

学習支援活動お世話役の会(委員会)平成19年度のメンバーは下表の通り。支援要請校急増に当たり、これからの当活動拡大策を含め検討を進めています。

委員長	中沢 保夫	音文 9
副委員長	井上 堅	福祉 8
副委員長	加藤 勇治	美工 10
委員	神林 幹夫	国際 5
委員	高橋 孝男	国際 9
委員	土井 清二	生環 9
委員	長谷川雅江	福祉 9
委員	渡辺 寛治	国際 10
委員	小林 勝	国際 11
委員	宮崎 芳江	生環 12
委員	濱岡 吉孝	福祉 4
委員	増金スミ子	福祉 11

上記委員(12名)の他にアドバイザーとして KSC 松本教務リーダー、わ 郷理事長が委員会に参画されています。

子どもたちの学習支援活動

平成19年度第2回登録者の集い開催のご案内

日時 : 平成19年8月8日(水) 10:00~12:00

場所 : 神戸市シルバーカレッジ 2F 学習室1・2

- 主な議題 : (1) 特別支援活動の方々の体験談
 (2) グループディスカッションをより充実した形でいきます
 (3) その他

登録者のみならず一般のグループわ 会員のご出席歓迎。

平成17年度の当活動スタート時から支援活動を続けられている「むかしあそび研究会」(会長 石川凱裕:福祉7期)の報告を初代会長 濱岡吉孝(福4期)にまとめていただきました。

むかしあそび研究会の誕生

平成13年4月、神戸市立北須磨小学校より「14年度から施行される新学習指導要領で、こども達が生き生きと学ぶことを目標とし生活科・総合学習が新設実施される。本校が先導的実験校として近畿地区生活科研究大会の研究会指定校になった。1年生の授業に伝承的な遊びで参加して欲しい」と要請があった。KSCの卒業生と在校生の有志5名で熟考の上これを受諾。会を創設し、ボランティア活動を開始。

むかしあそび研究会の活動状況

創設後6年の歳月が流れたが、本会の目的(子ども達と共に伝承的な玩具を作って遊ぶ活動を通し、子らに生きる智慧やわざを伝える)に賛同し入会する方が年々増加し、現在187名(KSC卒業生133名、同在校生54名)の会員を擁する会に成長。活動のエリアは神戸市の全区にわたり、活動

の対象は幼稚園児、保育園児、小学生、障害児、外国人児童生徒等の多岐に及んでいる。

活動内容は

伝承的な玩具(竹馬・こま・けん玉・メンコ・折り紙・お手玉・綾取り・おはじき・羽子板・竹返し・・・等)で子どもと共に遊ぶ。

伝承的な玩具(水鉄砲・紙鉄砲・ゴム鉄砲・紙飛行機・紙巻ごま・ぶんぶんごま・紙トンボ・竹とんぼ・七夕飾り・等)を子どもと作って遊ぶ。に分類できるが、実施場所の希望をよく聞き、数種ミックスして実施している。

活動の頻度は、「また来てね!いっしょに遊ぼうね。」と言う子ども達の温かい言葉と輝くまなざしに励まされ、加えて創業以来続く「わ」との緊密な協力関係に支えられ活動が年々右肩上がりに増加している。ちなみに、昨年度はしあわせの村・フルーツフラワーパーク等での各種イベントや幼稚園・小学校などの教育機関での活動は総計で31箇所のべ70回を数え、われわれと共に遊んだ幼児・児童生徒はのべ7007名に達した。

子どもたちの学習支援活動とむかしあそび研究会

平成17年5月「わ」の活動の一環として、将来の日本を背負う子らのためにという高い理想を掲げ「子どもたちの学習支援活動グループ」が立ち上げられ活動を開始した。むかしあそび研究会も創設のときから伝承的な遊びで小学校低学年の生活科の授業に参入し、学習支援を実施してきた経験をもっていたので、本会の呼びかけに応じて協力関係を保ちながら、伝承遊びの分野で活動し現在に至っている。今後は協力関係を更に深めながら3年生の社会科「昔の暮らし」、6年生の社会科「戦争と平和」の单元などの語り部活動で学習支援の領域を広げたいと考えている。

おわりに

「今の子は・・・」と批判的な言葉をしばしば耳にするが、これまで6年間の実践を通じて、どの子も明るく素直で、好奇心旺盛でやる気充分、そして何よりも遊ぶことが大好きで、私達の子どもの頃と全く同じと言う実感をもった。

この子らがある限り、日本の将来は決して暗くない。大人がよい手本を見せながら、大切に育てなくてはの感慨を強く抱いている昨今である。